

「あらまあ、こんには  
いらっしやいなよ」

「あなた、とってもチャーミングね  
でも可愛いからって手加減は  
しないのよ♪」

「ババアのま●こは  
クセーとか言うけど  
全然そんな事ないんだな  
ユルまんも意外と悪くねえ  
即ハメ出来るしババま●こ  
マジ便利すぎっしょ♪」

「相当使い込んだ  
ドス黒ま●こだな  
おばさん意外と  
若い頃は遊んで  
たんだな♪」



今日はこないだ街で声を掛けられた  
チャラ男君とデートなのよ

こんなおばさんを相手にするなんて  
物好きな子だと思いつつも悪い気は  
しなくて…あんまりいいから  
オーケーしちゃったのよ♪



ちよつと悪そうな感じが  
女心をくすぐるのよね♪  
いい歳して私もその気にな  
ったちゃて…この子の  
頼みは断れそうにないわ

デートにはこの衣装を  
着て欲しいって言うから  
しぶしぶ着てあげたの

ボディラインがはつきり  
出ちゃうから、おばさん  
恥ずかしいのよね...



ムクッ

ムクッ

ムクッ

ムクッ

ムクッ

ジ●ワットのドラゴン使いの  
ジムリーダーの衣装らしい  
けど...おばさん2人の  
格好はどうなのかしらね...

着て見せてあげたら  
チャラ男君ったら：

「マジやベーツス！  
ド●セナさん  
マジ似合ってるツス！」

って凄く喜んで  
くれたのよね♪

記念だからって写真を  
撮ったんだけど…

チャラ男君と一緒にだと  
何だか楽しくなって  
いい歳して思わずピース  
しちゃったのよね♪



デートが始まって早々  
チャラ男君のお願いで  
フェラチオ…をする  
事になりました



暫くするとチャラ男君は  
「ち●ぽ啜えたド●セナさん  
ホント可愛いッスー！これは  
記念に残しておかなきゃ！」  
と動画の撮影を開始しました

いきなりこんなお願いされて  
正直驚きましたが、必死に  
お願いする彼に根負けする  
形でそれを承諾しました

唾えてる最中も色々  
お願いされました

もつと舌を転がせとか、  
強く吸えとか、下品な  
音をたてるとか、両手で  
ピースしろとか…  
最後は精液を飲み干せ  
というお願い…  
チャラ男君の射精は  
物凄くって口で受け  
止めるのは大変でした



彼のお願いなら  
何でも聞いて  
あげます♥

必死に頼むフリすりゃババアは  
どんな事だって聞いてくれるな  
若い女じゃこうはいかねー

つーか、汗かくほど  
フエラ頑張っちゃって  
ババア、マジウケるw  
いい歳してみっとも  
ねえ顔w言われた  
からってこんな  
必死でやるとかw  
このち●ぽ顔マジ  
ヤベーわww



四天王のド●セナさんが  
顔にチン毛付けて必死に  
ザーメン飲んでますわw

いいもん撮れたな  
高く売れそうだし  
ち●ぽスッキリだし  
ババアマジ便利w

「いいよ〜ド●セナさん  
大人の色気でまくり♪」

「そ、そうかしら？  
でも、これは流石に  
恥ずかしいわ…♥」

「大丈夫だって！  
ここ人通り少ないし  
ちやつちやと済ませれば  
誰にも見られないから♪」

むあ〜

「チャラ男君ったら…  
ほんとワガママなのよね♥」

ムキムキ

ムキムキ

カシヤ  
カシヤ

ム〜ム

ム〜ム

ぶらん〜

ぶらん〜



「それにしてもそれ、似合ってるよ  
こないだプレゼントしたアクセ♪」

「「ううの初めてだから  
よく分からないんだけど…  
チャラ男君が喜んでくれる  
なら…♥」

「ああ、嬉しいよ♪  
どう？付け心地は？」

「少し重いけど、大丈夫  
良い感じ…なのよ♥」

「常にク●トリス引っ張られて  
感じてるんだよね♪  
気持ち良いの我慢して  
汗かいてるし、っーかおま●  
濡れてんじやん♥…そういう  
トコ、可愛いんだよな♥」

「もうそんな事言つて、チャラ男君つたら…  
おばさんをからかうんじやありません♥」

むあ

ムキムキ

ムキムキ

カシヤ  
カシヤ

ぶらん

ぶらん

ムン

ムン





カシヤ  
カシヤ



(ああ〜マジチヨロいわ〜w  
ババア攻略イージーすぎっしょw  
俺の言う事ならマジで何でも  
してくれるじゃんwこのババア  
俺にベタ惚れかよww)

ぶっぺん

ぶっぺん

ぶっぺん

ぶっぺん

ぶっぺん

ぶっぺん

(四天王のこんな写真高く売れる  
だろうな〜、ババア好きとか  
相場以上の金出してでも買って  
くれるだろーしw)

(これでしばらく金に困らねえな  
他の女とのデート代もかかるし  
ほんと助かるわ〜  
ト●セナさん、マジあぶ〜っすw)

四天王の私はこれからも  
現役で続けるつもりです

とは言っても寄る年波には  
抗えません…そんな話を  
チャラ男君にしたら彼は  
「一緒に体力作りをしよう」  
と言ってくれました  
こんなおばさんの相談に  
乗ってくれるチャラ男は  
とても優しいのよね♪

そういう訳で今日は二人で早朝ランニング  
衣装から走るコース等々全てチャラ男君が  
準備してくれました  
本来、年上である私がやるべき事なのだ  
と思うのだけれども、チャラ男君は  
「歳とか関係ないッス！男は女性を  
エスコートする…当然ッス！」  
なんて言うのよね♪  
頼りになる男の人って素敵だと思っわ♪

ところでランニングもそこそこに  
チャラ男君は喉が渴いたというので  
自動販売機を探して水分補給を  
することになりましたが……

「チャラ男君：水分補給を  
するんじゃないの？」

「してるじゃんっ…♪  
ド●セナさんのまん汁で  
水分補給バッチリッスよ♪」

「そんな…ダメよ…  
早朝とはいっても  
こんな場所で…  
誰か来ちゃうわ…♡」

「外でそんな格好してる人に  
言われてもな…♪」

「もうイジワル…  
これはチャラ男君が用意して  
くれたものじゃない…♡」

ずずずずずっ

ちゅるるるっ

ちゅるるるっ

んっ  
んっ  
んっ  
んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

ちゅるるるっ



ピクッ

んっ

ふっ

んっ  
んっ  
んっ

「てか、ド●セナさんこれ  
どうなってんの？  
いくら飲んでもまん汁  
溢れてくるんだけど？」

「だって……んな事されたら  
身体……反応しちゃうわ……  
意識すればするほど……  
止まらない……のよね……」

(ババアのま●はクセエとか  
思ってたけど……めちやくちや  
旨いんですけ(3))

(石鹸の匂いにほのかに香る  
メスの匂い……マジやべーw  
ババアま●こから溢れる  
スケベまん汁最高だわw)

(俺に舐められて  
感じてるババアも  
案外可愛いなw)

ぢゅる  
ぢゅる  
ぢゅる

ずずずずず

ぢゅる  
ぢゅる  
ぢゅる

んっ  
んっ  
んっ

んっ

んっ

んっ



ついに私は一線を越えてしまった  
いつも通りの根負け……  
中出しは禁止、コンドームを  
つける事を条件にチャラ男君の  
やる気満々の男根を受け入れた

チャラ男君は4度の絶頂を  
迎え、間もなく5度目の  
絶頂に達する頃です……

一体どの位振りのエッチだったか……  
その快感は物凄く……私はすっかり  
チャラ男君のち●ぽの虜になりました



あーんっ  
あーんっ

んっ  
んっ

「休み無しで  
こんなに続けて……  
おばさん……  
もう限界なのよっ♡」

「そんな事言っちゃっつきから  
俺の事離してくれないじゃん♪」

「これはその……  
おばさんはこの姿勢が  
楽なのよっ……♡」

「ふーん……それじゃあまあ  
そう言う事にしてあげますか  
ドスケベなド●セナおばさん♪」

「もう……全部チャラ男君が  
いけないのよ♡おばさんに  
女の喜び思い任せ  
ちゃったんだからっ……♡」





「それなら今日はとーんと  
相手しちゃうから……  
ド●セナさんは心ゆくまで  
女の喜び感じちやっつてね♪」

「ああもうっつ♥チャラ男君っ♥突いてえ♥  
極薄コンドーム使い切るまで四天王・  
ド●セナのおばさんおま●二」……  
めった突きしてえっ♥」

(マジでババア最高かもw  
飽きもせず、エッチしてく  
れるし、反応が何より  
良いw……でもちやっぱり  
生でハメてえなあ……)

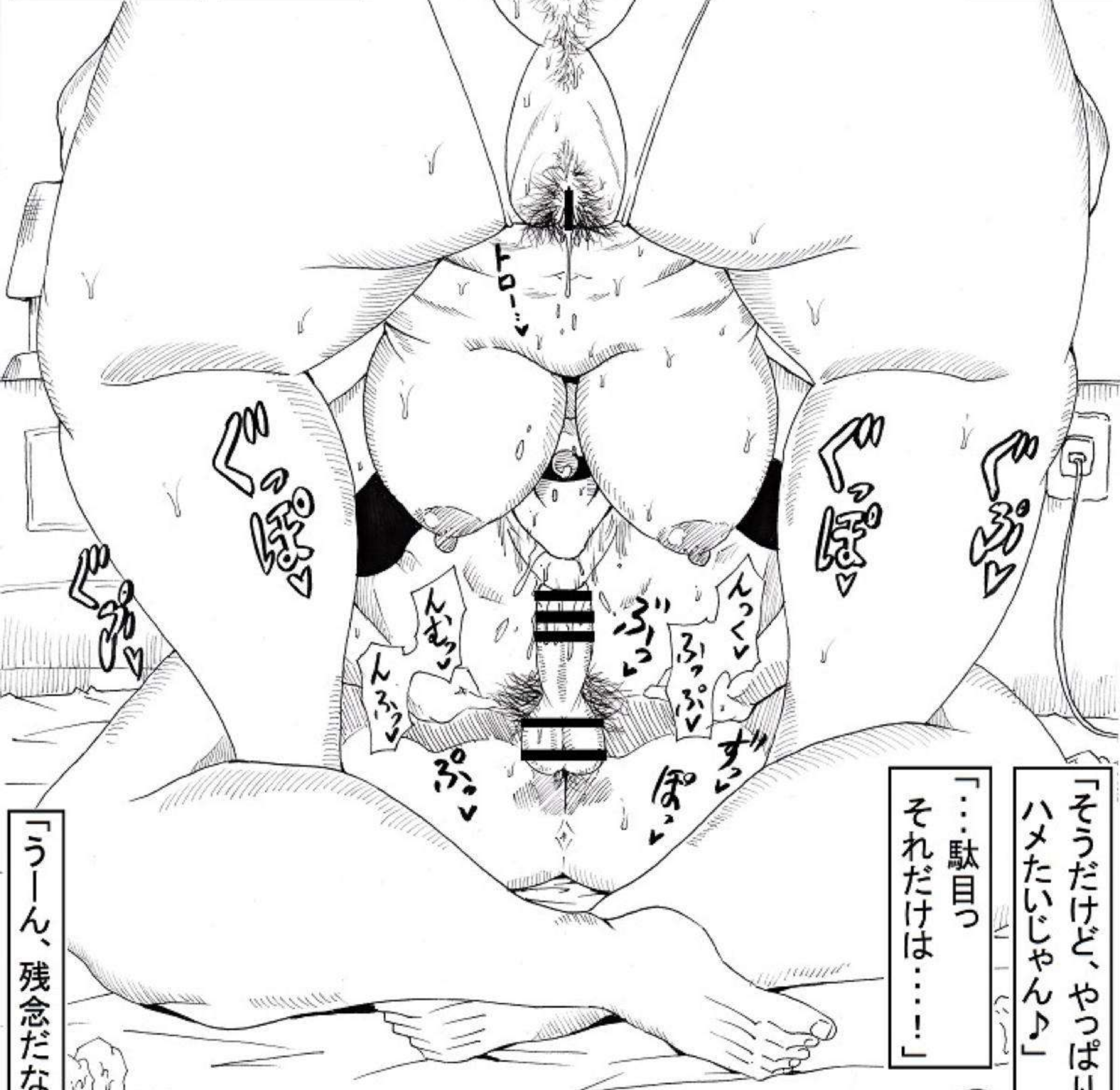


「ああ気持ち良いわ〜♪  
ド●セナさんのフエラ  
マジ最高〜♪」

# おにい...♡

「ま●「もマジで最高〜  
一度でいいから  
生でハメてえな〜...」

「ぶはっ♡だ、駄目よっ  
前に言ったでしょう  
エッチするならゴムは  
ちゃんと付けるって!」



「そうだけど、やっぱり生で  
ハメたいじゃん♪」

「...駄目っ  
それだけは...!」

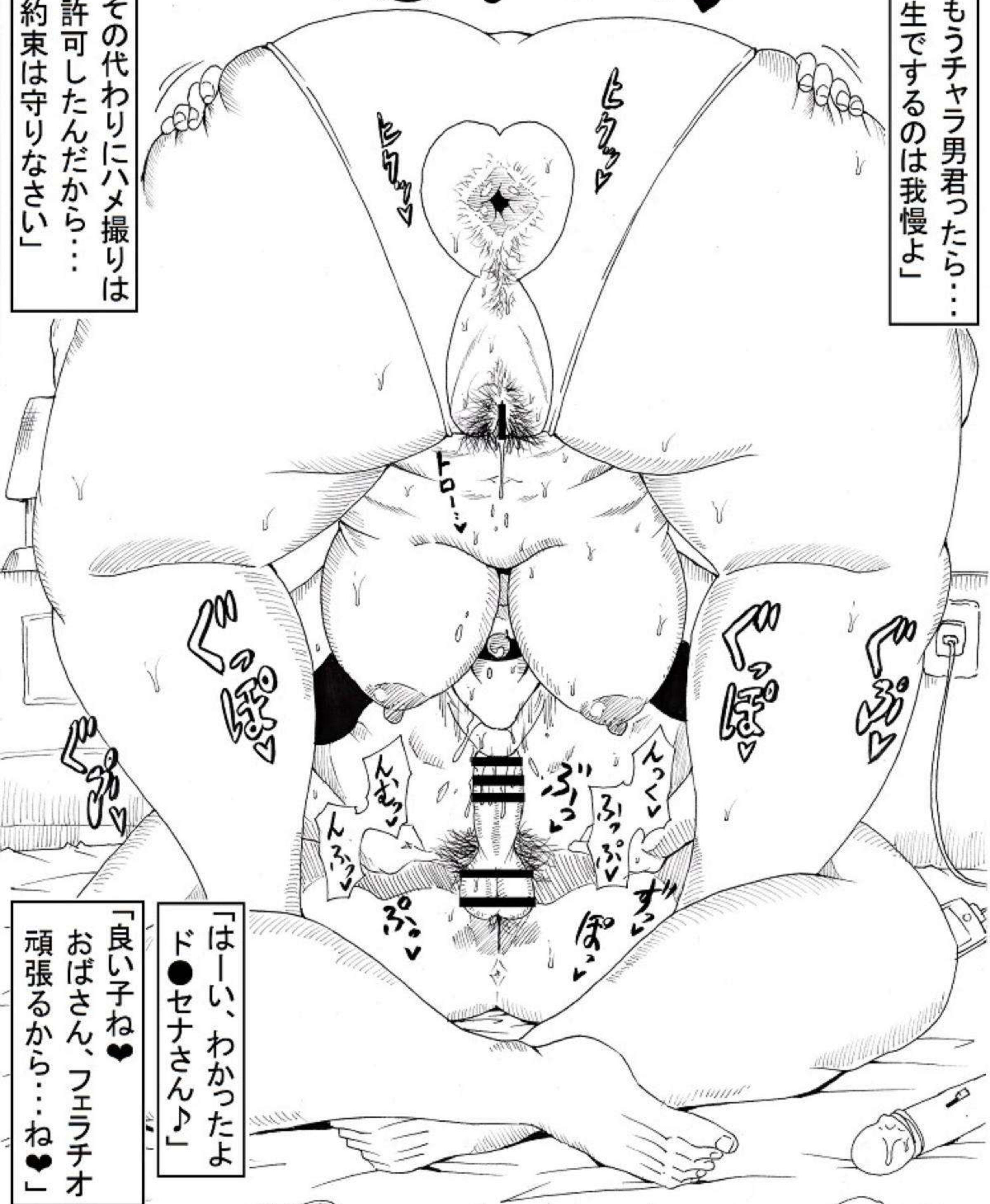
「うーん、残念だなあ♪」



# おにい...♡

「もうチャラ男君ったら...  
生でするのは我慢よ」

「その代わりにハメ撮りは  
許可したんだから...  
約束は守りなさい」

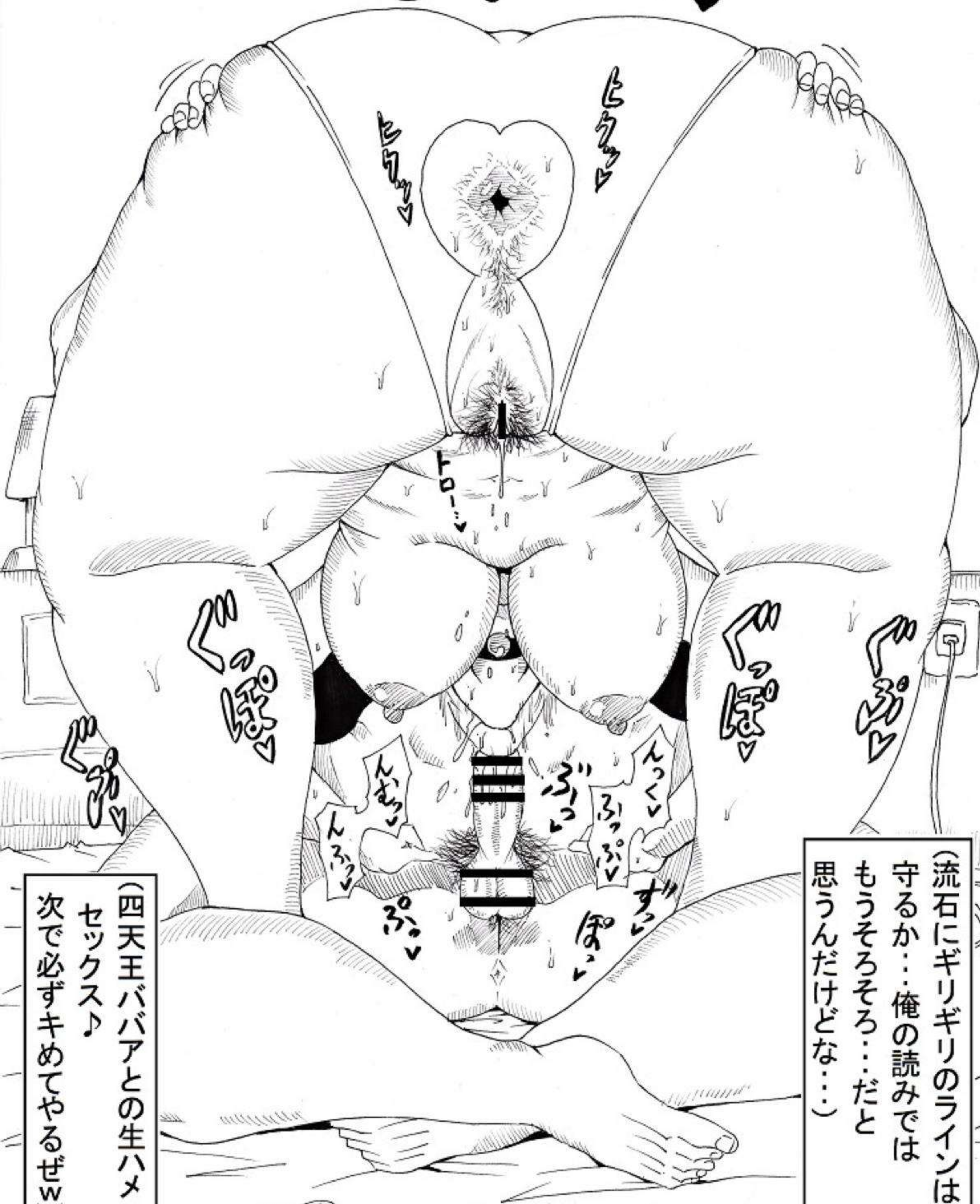


「はーい、わかったよ  
ド●セナさん♪」

「良い子ね♡  
おばさん、フェラチオ  
頑張るから...ね♡」



# おにい...♡



(四天王ババアとの生ハメセックス♪  
次で必ずキめてやるぜw)

(流石にギリギリのラインは  
守るか...俺の読みでは  
もうそろそろ...だと  
思うんだけどな...)



この日ついに私は  
チャラ男君と  
ゴム無しセックスを  
しました  
彼は何度も何度も  
私の膣内に精液を  
注ぎました……



後悔はありません  
それは私に愛を囁く  
彼の目が本気だったから……

「これが真実の愛だ」  
「これからも貴女を  
大切にする」……  
こんな事を言われて  
私は年甲斐もなく  
舞い上がり中出しを  
受け入れました……

「チャラ男君…  
今日は…いい、一段と  
凄かったわね…♡」

「そりゃあ、ド●セナさんと  
念願だったゴム無し生ハメ  
セックスで真実の愛…  
かませましたから♪」

「やだ…  
またそんな事  
言つて…♡  
ありがと…  
おばさん…  
嬉しいわ♡」

「へへへ…  
ド●セナの  
おばさんま●●」  
マジ最高だよ♡」

「チャラ男君のイケメンち●ぽ  
だって…マジ…最高ののよ♡」

「ありがと♪  
ホテルを出るまで  
まだ時間はある  
俺のイケメン  
ち●ぽ♪ともっと  
愛し合おうね♪」

「も、勿論よ♡  
おばさんま●●」  
大歓迎よ…♡」

「愛してるよ、ド●セナ♡」

「私もよ、チャラ男…  
愛してる…♡」





(金はかかんねえし俺の言う事  
何でも聞いてくれるし…  
マジ便利過ぎるもんな〜www)

(これで攻略は済んだけど  
もう暫く遊んでやるかw)

(俺のテキトーな愛の言葉なんか  
真に受けちゃって…  
ババアチヨロ過ぎるってのw)

(はい、おばさん堕ちたーw  
中出しキメて身も心も  
100パー堕ちましたーw)

どきどき

どきどき

「もう……今度はこんな服  
着させて……おばさんが  
こんな格好してたら  
馬鹿みたいじゃない……♡」

「分かってないな〜ド●セナさん  
そのギャップがいいんスよ♪」

「……そうみたいね  
だって、チャラ男君の股間  
膨らんできてるものね♡」

「そりゃこんなドスケベ可愛い  
ド●セナさん見たら当然ツスよ♪」

「まあ♡当然なの？うふふ♡  
実は私も……濡れてるわ……♡」

「おっほー♪ド●セナさん  
マジヒロ過ぎっしょ♪」



「ねえド●セナさんさっきから  
ずっと「うち見てるガキが  
いるんだけどさよ」

「もうチャラ男君ったら  
ひどいわ♥」

「んで、今変態おばさんの  
ま●「はどっうなっぺんスカ？」

どキどキ

どキどキ

「えっ？いやん♥恥ずかしいわ♥」

むっちゃん

「いやいやWそんなスケベな格好して  
絶賛ま●濡らし中の変態おばさんが  
何言っちやっぺんスカW」

「まん汁でぐちよぐちよ♥」

「ちよるの」





どきどき

どきどき

「そーだ、良い事思いついた♪  
おい、そこのガキんちよ  
面白いもん見せてやるから  
こっちに来てみー♪」

「え？チャラ男君  
何をする気？」

「いーから♪  
ド●セナさんも  
気に入るって♪」

チャラ

いー

むっちゃん

むっちゃん

「もうチャラ男君  
いやらしい顔に  
なってるわよ♥」

「うひひwバレバレかw」



あ、ん

あ、ん

ビクッ

ん、ん

ん、ん

んはっ



「どうよ、ガキんちよ  
これが大人の遊びだぜ♪」

「ああダメ♥いけないわ♥  
ボク…見ちゃダメよっ♥」

「そんないやらしい声で  
言ったって説得力  
ないっすよ♪」

「チャラ男君ツ…♥  
や、やん♥止め…  
止めて…んはっ♥」

「だーめ♪  
ペース上げるよ♪」

「これ以上は…んっ♥  
んっ…♥ダメエ♥」



あーっ  
あーっ  
んはっ

んはっ

んはっ  
びくっ

びくっ

んはっ

んはっ

んはっ

んはっ

んはっ

んはっ

んはっ

んはっ

んはっ

んはっ

「見ちゃダメとか言いっし…  
感じまくってるじゃないですか♪  
ま●「ぎゅうぎゅう締め付けてきて  
俺のち●ぽ放してくれないもんな♪」

「そっ、それはだって…あんっ  
ぼくに見られてるからあ…」

「見られて感じる  
ドスケベおばさん  
ですもん…ねっ♪」

「んおっ  
おっ…ち●ぽ  
ち●ぽズンズン  
くるんっっ」

あー

あーんっ

ビクッ

ビクッ  
んっ

んはっ

「ダメダメツ♥チヤラ男君  
私…もう…」

ふん

「アツ…  
ア…」

「イッ♥♥♥」

「はい、おばさんイキました〜♪  
…それにしても、こんなの  
見ちまってガキんちよの性癖  
歪んじまうんぢやねーか？  
…まっ、いつか♪」

「おっ…イッちちちっ…早いね♪  
よーしそれじゃあおばさんが  
イッちちちっ、見てもおっか♪」

「あぁ♥」

「イクッイクッ♥」

「イッちちちっ…  
おま●」  
ぼくに見られて…  
イッちちちっ…」



「どうだガキんちよそれがま●この味だ  
人生初のクンニがこんなスケベなおばさん  
のま●こだなんて全くツイてるな〜♪」

「あれあれ？ド●セナさんってば  
思いつきり感じちやってるじゃ  
ないですか♪妬げちやうな〜♪」

あぁっ  
やんっ  
あんっ

アクッ

ビクッ

アクッ

んっ  
むっ  
ひぢやっ

びぢやっ  
ぽろっ  
ぽろっ

ギんっ  
ギんっ

「そ、それはチャラ男君と…  
したばかりだから…  
おま●こ敏感になってるから  
あ…♡許してえ…♡」

「ふーん…まあそつ言つ事に  
しといてあげますかね♪」

(この子、舌を。ペロペロと  
まるで子犬みたい…  
こんな見るからに  
犯罪的な行為…  
大人である私が  
しっかりしないと…  
教育してあげないと  
いけないのに…(♥))

ああんっ  
やんっ  
ああんっ

(この背徳感に私は  
興奮している…  
いい歳したおばさんが  
感じまくってる…(♥))



(こんなガキ相手にマジに感じてるとかwババアのくせして節操がねえなw 帰ったら俺のち●ぽでお仕置きだなw)

あぁっ  
やんっ  
あんっ

(それにしても  
気まぐれでやってみただけ  
これ結構いいかもw  
あー新しい遊び見つけ  
ちったなあw俺マジ天才w)



数日後、私は連絡先を交換した  
この子呼び出してまたエッチな  
事をしていきます…  
勿論、チャラ男君の命令です

先日、この子のクニニでイって  
しまった罰として…私は  
この子の前で股を広げています

この子はここへ来る前にチャラ男君に  
中出しされた私のドロドロおま●こを  
見ながら一心不乱に皮被りち●ぽを  
していただきます…



どきん

どきん

どきん

どきん

どきん

どきん

どきん

どきん

どきん

どきん

どきん



「凄い勢いで擦るのね…  
そ、そんなにおばさんの  
お、おま●こ…って  
興奮するのかしら？」

「はいっ！興奮します！  
こないだ舐めた時から  
おばさんのアソコが  
忘れられなくて…！」

「そうだったのね…  
それは辛い想いをさせてしまったわ  
今日はおばさんの生おま●こで  
いっぱい気持ち良くなりましょっね♥」



(あのババア、最初は嫌がってたくせに やって見たら結構ノリノリじゃねーかw)

どキーン

どキーン

(カ●ス四天王ド●セナの本性！  
白昼堂々未●年を誘惑♥淫行！  
…みたいな感じかしらw  
くくく…こりやあマジで  
すげーもん撮れてるぞwww)

(まあこれからがもっと  
すげーことになるんだけどなw  
流石にババアも躊躇するかも  
しんねーけど、俺様の頼みとも  
なればやってくれるっしょwww)



トクン

トクン

トクン

トクン

トクン

トクン

ハア

ハア

ハア

ハア

ハア

ハア

ハア

ハア

ハア

ハア

(んだよババア  
ノリノリじゃ  
ねーかw)

「おばさん！  
さっきの約束  
守ってよね！」

「」のゴム使い切る  
まではエッチして  
いいんだよね？  
ぼく絶対止めない  
からねっ！」

「」の子ったら、チャラ男君並みに  
元気じゃないのっ♥」

「おばさん、気合入れないと  
もたないわっ…♥」

(あんなガキ相手にデカ尻振って  
感じまくってんじゃねーよw)



「気持ち良いよ！  
おばさん！  
もつと…  
もつと奥に  
入れるよっ！」

「嘘っ!? 子宮の入り口に  
ぼくのち●ぽ届いてる  
…子●ち●ぽでも  
この体勢だと確実に  
赤ちゃん作れちゃう♡」

(元タムツツリスケベな  
ババアだったが…)

(俺の調教もあってとんでもねえ  
ドスケベババアに進化したなw)



「おばさん！  
おばさん！  
腰が止まんない！  
ぼく、おかしく  
なりそうだよ！」

「こ、こんな事…  
今日…だけ…  
なんだからね♡  
こ、後悔のない様  
ぼくの…全部を  
出し切りなさい♡」

ハア

ハア  
ハア

「はっ…」

（今日だけのつもりだったけど…  
どーすっかなあwそれは俺次第w）



今日はチャラ男君とホテルへ  
向う途中にチャラ男君の  
お友達と出会いました

昔お世話になった先輩らしく  
二人で話があるというので  
私は少し離れた所で二人の話  
が終わるのを待っていました

二人はきつと  
男にしか分から  
ない話……とか  
してるのよね♪



「おうチャラ男！  
久し振りだな〜！」

「マッチョ先輩……ですよね？  
昔と雰囲気が変わったから  
気付かなかったッス！」

「そうだな、ちよ〜っとガラが  
悪くなったかもなw  
お前は相変わらずだな〜w」

「そうッスか？  
あはは……」

「と〜ろでよ……あの女、四天王の  
ド●セナだよな？」

「は、はい  
そうッスけど……」

「俺ファンなんだよ！  
何？お前どんな関係なの？  
まさか彼女だとか？」

「違いますよ！  
セフレッスよw」

「そうか彼女じゃないのか！  
……でも羨ましいなあ  
あんな有名で綺麗な熟女  
がセフレだなんてよ〜！」

（マッチョ先輩、相変わらずの  
熟女好きか……）

「それにしてもチャラ男が  
熟女とね〜…昔は  
ババアに興味ねえ！って  
言ってたのになあー！」

「いやあ、モノは試しと思って  
口説いてみたんすけど…  
熟女も悪くないな〜ってw」

「お！お前もようやく熟女の  
魅力に気付いたか！  
だよなー、熟れた女は  
ホント最高だよな〜！」

「いやあもうホント！  
最高ツスね！」

「そうだよな〜！  
そんな最高のモン  
独り占めしちゃダメっしょ？」

「えっ？」

「セフレなんだろう？  
なら俺にも使わせてくれよ！」

「ええ〜…マジツスから？」

「マジツスよ！  
お前に熟女の素晴らしさを  
教えてやった心優しい先輩  
だろ？つまり、今お前が  
ド●セナとセフレなのは  
俺のお陰っしょ？」

「えっ…え〜！  
そう言われればそうな  
ようなそうじゃない  
ような〜…」

「そうなんだよ！はい、決定〜♪  
それじゃあ、近い内に  
連絡っすからヨロシク〜♪」

「ちよ！先輩っ！」

（強引なとこも相変わらずかよ…  
でも、逆らうと面倒くせー事に  
なるだろーし…しやーねーか…）



「いや、ほんと夢の様ですよ  
憧れのド●セナさんとお茶  
してるなんて♪」

「それは良かったわ……」

「しかもジ●ンサーさんのコスプレ姿！  
もう、チャラ男にマジ感謝ッスよ！」

「うふふ、そうね……」  
(チャラ男君がどうしていても言うから  
いつもの感じでいい引き受けちゃった  
けど……ううん、困ったのよね……)

お茶

お茶



「実は俺無類の熟女好きでして…  
何を隠そうチャラ男に熟女の  
素晴らしさを説いたのも  
この俺なんですよ！」

「あら、そうだったの…？」

「そうなんスよ！  
あいつ昔は年下しか興味なくて  
しみたれたババアなんか用は  
ねえ！とかほざいてたんスよ！」

「まあ…酷いわね」



ぷちぷち

「そんな事言ってた奴ですから  
…今だって心配なんスよ？  
ド●セナさんに酷い事して  
ないかって…！」

「それは…そんな事はないわ  
彼、とても優しいもの」

「ひゅー！ラブラブスね！  
全く、チャラ男が羨ましいぜ！」

ぷちぷち



「でもやっぱり不安だなさ  
だって、あいつ昔何人も女  
孕ませてポイしたし……」

「えっ？チャラ男君が  
そんな事……！」

「あれ？ド●セナさんあいつから聞いてなかった？  
その時さ、俺が金とか諸々面倒みてやったんよ  
……それであいつは俺に逆らえなくて、今日俺に  
ド●セナさんを会わせてくれたってわけですよ！」

「嘘……そんな……」

「つまりド●セナさんが俺の言う事  
聞かないとあいつが困るワケ！  
……後はもう分かるよね？」

「チャラ男君……  
私はあなたの為なら……」

「なーんか脅迫してるみたいで気分悪いけど  
まああいつを熟女好きにして二人を  
めぐり合わせた云わば恋のキューピットで  
ある俺にも少しは良い思いさせてもらって  
もバチは当たらないっしょー！」

「いいわ……マッチョ君の  
言う通りにするのよ……」

おち

おち



「いいよド●セナさん！  
4発目までもうそろそろだ！  
俺がイクまでその口に  
啜えてるゴム放しちや  
駄目だよ！放したら1時間  
フェラの刑だかんねっ！」

「うっ…くぶっ♡」

「それにしてもでけえケツツスね！  
後ろから突く度にケツの肉が  
波打ちしてますよ！」

「んっ♡んぶっ♡  
んんっ♡んぐっ♡」

んっ♡  
びんっ♡

んっ♡

んっ♡

だばんっ♡

だばんっ♡

だばんっ♡

だばんっ♡

だばんっ♡

カシッ

ギシッ

ギッ

「もういい歳だし、さぞや  
使い込んだユルユルま●こ  
かと思いきや…良い締り  
してますね！」

「俺のち●ぽデカいから  
これだとド●セナさん  
苦しいッスかね？」

(ほんと…おつきい♥  
チャラ男君のより  
太くて長い…)

(苦しい…けど  
それ以上の快感…)

(大好きなチャラ男君との  
エッチだって最高なのよ♥  
…でも、マッチョ君の  
ち●ぽはそれ以上の…)

「けど、すんません  
気持ち良すぎて  
抑えられないッス！  
もうちっと激しく  
いきますねっ！」

「んっ…♥  
んっ…♥♥♥♥」





「やべー！ち●ぽ萎える気配ないわ！  
すんません、ド●セナさん「れきつと  
朝までコースススわ！ゴムは沢山用意  
してあるんで安心して下さいっ！」

「嘘っ…こんな気持ち良いのが  
朝まで続くの！そんなの無理  
…マッチョ君のち●ぽに感じ  
まくってるのバレない様に  
してるの！…  
これ以上は我慢出来ない…」

「マッチョ君のち●ぽで  
ヨガリまくるみっともない  
お婆さんの姿晒しちゃっ」

「またイキそう……！  
何発目だったっけなっ！  
とにかくイキますよ！  
ド●セナさんっ……！」



んはっはっ

はっはっ

はっはっ

もみちゃん

もみちゃん

もみちゃん

はるん

はるん

おほい

おほい

おほい

「いいわよっ♥きて、マッチョ君♥  
こんなおばさんで良かったら  
いくらでもおま●こして  
あげるからっ♥あっはああん♥」  
「全く、普段澄ました顔して  
実はとんでもない淫乱ババア  
だったなんて！最高かよっ！」

「すっかり若い男のち●ぽに  
夢中になっちゃって…  
いい歳して恥ずかしくないん  
ですか？それに四天王という  
多くの人から尊敬される  
立場っていう自覚あります？」



はっ  
はっ  
もみゃー  
はるん  
はるん  
はるん  
はるん  
はるん

「そ、それは…そう  
なんだけど…いやん  
言わないでえ…」



「ほんと恥ずかしく  
ないんですか？  
四天王なんですから  
もっと凜としてくれ  
ないと困りますよ！」

もみゅん

はっ

はっ

はっ

もみゅん

ばるん

ばるん

おほおほ

おほおほ

おほおほ

「それはマッチョ君が悪いのよ  
こんな女殺しち●ぽ相手に  
ひたすらおま●「されたら  
それはこうなっちゃうわよ」  
四天王だって…スケベに  
なっちゃうわよおおお」  
「●●」



「やだ…またこんな格好で外を歩くだなんて…」

「何だよ、もう経験済みか  
つたく、チャラ男の奴  
楽しんでやがんなら〜！」

「今日は人が多いのね…  
皆、こっちを見ているわ…」



ドキッ

ドキッ

ムニッ

ムニッ

ムニッ

ムニッ

「もう…マッチョ君ったら♥」

「そりゃあね♪  
その為の格好だもの♪」

「これだけ人がいたら流石に私の正体  
バレちゃうんじゃないかしら……？」

「大丈夫、サングラス掛けてるし……  
まさかあの！四天王である！  
ド●セナが！こんな格好する  
なんて誰も思わないから♪」

「きやつ♥いきなり  
お尻触っちゃダメ♥」

「それしてもでけえケツ  
だよな……♪」んなん  
見せられて我慢出来る  
ワケねえよなあ……♪」

「いやいや、こんな尻丸出しで  
触って下さいって言うてる様な  
ものじゃねえの？」

「マッチョ君が着させたんでしょ……  
やだもう……恥ずかしいわ……♥」



「こんな大きな…みつともない  
おばさんのお尻なんかで…  
興奮…しちやうの…?」

「つたりめーだろ！  
熟女の巨尻なんて  
フル勃起もんだろ！」  
「マッチョ君…フル勃起…  
しちやうの…?」



「俺だけじゃねえぜ  
周りにいる奴等だって  
ド●セナの巨尻見て  
興奮しっぱなしだよ♪」

「折角だし、奴等にもド●セナの  
巨尻見せつけてやるか♪」

「そんな…皆も…♡」



「皆さん、先程から俺のツレが  
気になってるみたいで…  
良かったらもっと近くで  
見てやって下さいよ」  
…よし、やれよ」

「は〜い♥皆さんこんばんわ〜♥  
私のチヨ〜イケてるヒロダンス  
見てって下さいね〜♥」

「それにしても今日は暑いな  
おい、お前もそう思うだろ？」

「ほんとマジ暑いわね〜♥  
胸なんか窮屈で余計  
暑く感じちやうわ〜♥」

「ああんもう  
おっぱい  
出しちやえ♥」

~~~~~

フシ

~~~~~



「ほら、得意のポーズでも  
してみろよ♪」

「イエーイ♥ピュース♥  
どっつかしらっ？  
このポーズ  
マジイケてるっ？」

「ぶっくくくく  
イケてるイケてる♪  
ほんとマジ最高だよ♪」

「おい、遠くからだど  
気付かなかったけど  
この女随分歳いつて  
ないか？」

「やっぱそっつだよな？  
こんな格好してるから  
分からなかったが…  
いい歳したおばさんじゃん」

♪♪♪♪♪

うんうん



「ほくら♥見て見て〜♥  
私のチヨーデカ尻マジエロダンス♥  
マジイケてるでしょ〜♥」

「何だよ、ババアかよ  
はー…帰る帰る」

「お、俺は帰らないぞ！  
言葉遣いとか若い娘を  
意識してるけど違和感  
ありまくりで…でも  
そんな風に無理してる  
おばさんとか最高じゃん！」

「俺も年増好きだ  
一緒に見ようぜ！」

「それにしてもこの人…  
どっかで見た事ある  
ような気が…」



「なあに？  
ブツブツ  
言ってるないで  
もっと近くに  
来なさい♥  
少しなら  
触っても  
いいわよ♥」

「実は俺もそう  
思ってたんだよ  
うーん…  
誰だっけな〜…」

「リ」

「おっおっ」

「おっおっ」

「おっおっおっおっ」

「とんだ  
スケベババアだぜ！」

「マジかよー！」

「おいおい、何だよド●セナ  
もうま●こぐちよ濡れじゃん♪」

「それは人前でこんな格好で  
あんな踊りさせられたら  
おばさんだって濡れちゃうわ●」

「胸まで出したしな♪  
しかしよー…そこまでは  
俺が指示した事だけど  
お触りは指示してなかったぜ？」

「めんなさー…  
興奮して、つい…●」



ふっ

ん

ゴッ

おっ

おっ

おっ

ぐっ

ぐっ

スリッ

スリッ



「しゃーねえな」

「こ」でスツキリさせてくれたら許してやるよ♪」

「え？こ」って外で……？」

「つたりめーだろ！ん？嫌なのか？」

「それは……だって人に見られたら……」

「心配すんなよここなら路地裏だし大丈夫だってつか、もし誰か来ても俺が追っ払ってやるよ♪」



スリッスリッスリッ

ギンッ

ぐっちゅっ

ぐっちゅっ

「マッチョ君……頼もしい……♡」

「ト●セナの為なら当然……だろ？」

「私の為……嬉しい……♡」

「だろ？それに…  
なあ、俺の「ヨ」も  
頼もしいだろ？」

「ええ…♡とつても大きくて…  
凄く頼もしいわよ…♡」

「チャラ男とどっちが  
頼もしいんだよ？」

「えっ？そ、それは…  
確かにマッチョ君の方が  
大きくて…奥の気持ち良い  
所に当たるけど…♡」

「違う違うw  
ち●ぽの話じゃなくて  
誰が来ても追っ払ってやる  
って…男気の話だよw」

「え？えっ？もう嫌だ私ったら…♡  
て言うか、それならちゃんと…  
もう…マッチョ君のイジワル…♡」



「ああ〜いいわ〜♪  
でも、もう少し深く  
啜えてくれると  
嬉しいかな〜♪」

(マツチヨ君のデカちんを奥まで…  
ちよつと苦しいけど…  
おばさん頑張っちゃうわよ♡)



「おっ！それそれ♪  
ド●セナが本気  
出してきたぞ♪」

(そうよ♡  
チャラ男君に鍛えられた  
フェラテク披露しちゃう  
んだから♡)

「深っ……奥まですっぽり  
啜えちやつて……!!  
ちん毛付けたまま  
スケベな音鳴らして……  
とんでもないスケベ  
ババアじゃんw」

(おいしー♥  
マツチヨ君の為なら何だって  
やっちやうスケベババアよ♥)



「ああ気持ち良い〜♪  
悪いな、ド●セナ俺だけ  
気持ち良くなってる♪」

「いいのよ〜♥  
マッチョ君のデカちゃん  
お口でぶっ〜「ヌイ」て  
あげるんだから……  
……でも……」

「口で一発ヌイたら  
ちやくんとド●セナも  
気持ち良くしてやっからな♪」

（もう〜やだやだ♥  
マッチョ君ったら優しいんだから♥  
それを聞いたたら我慢出来ないわ♥  
早く♥早くイってちよ〜うだい……♥）



「約束だからな！  
俺のデカち●ぽで  
ぐちよ濡れ  
ド●セナま●こ  
気持ち良く  
してやるっ！」

「ああ♥マッチョ君♥  
やだこれえ♥  
おま●この深いト」  
突いてくるうんっ♥



「そんなあ…♥  
我慢出来ないわよお♥  
だって、マッチョ君の  
デカち●ぽお…♥  
ずっと欲しかった  
んだものお…♥」

「ちよっw  
ババア声でけえぞw  
いい歳してそんな  
スケベなメス声  
外で出すなよw」

「そうか…  
そうだよな  
ならしやーねえな  
いいぜ、遠慮なく  
喘ぎなっ！」

あんっ  
あっ  
あっ

ブツェッ

ブツェッ

バグッ

バグッ

バグッ



あっ  
あっ  
あっ  
あんっ  
あんっ

ブツェッ

ブツェッ

バグッ

バグッ

バグッ

バグッ

「誰に見られようが  
構わねえけど、  
おまわりが来たら  
面倒だからな…  
一発かましたら  
ずらかるぞ！」

「分かったわあ♥  
でも、その代わり  
ものすごい一発  
かまして頂戴ねっ♥」

「あつたり前だろ？  
期待してるよ  
ド●セナ♪」

「マッチョ君…♥」



「おまわりの事も  
あるけどそーいや  
今日はこれから  
チャラ男と  
デートだったよな？  
悪いな、ド●セナ  
さっさと済ませて  
帰してやるからな」

「いやよっ♥  
ダメダメエ♥  
これだけじゃ  
足りないわあ♥  
チャラ男君の事は  
いいからあ…  
もっとマッチョ君の  
ち●ぽとハメハメ  
したいのお…♥」

「くくく、チャラ男より  
俺のち●ぽかよw  
まあド●セナにそんな  
言われたら付き合う  
しかねえよなあ♪  
よし、この続きは  
ラブホでするぞ♪」

「ラブホでするう♥  
マッチョ君と  
ラブラブハメハメ  
セックスするう♥」



はあ…

はあ…

ムーン

「おっ出てきたな  
うひーすげえ汗の量W」

「こんな…コート着たままで  
サウナに入ったら…そりゃ  
こんなに汗だつてかくわ…  
それにバイブまで付けさせて…」

あはあ…

グッしょり

あはあ…

「全身びちよびちよのぐっしょり…  
こりゃ思ってた以上にヒロいわ〜W」



はあ...  
はあ...  
ムン

「つーか、ド●セナよ、  
お前今すげー匂い  
放ってるの分かってる？」

「えっ？」

お前...  
ムン

ムン

「汗とまん汁と  
ばばあ特有の匂いが  
混じって...めっちゃ  
臭いのよねw」

「いやん♥だめっ  
臭いじゃいやっ♥」

ムン  
お前...  
ムン

「そんな事言っても」  
匂いまくってるかな...w  
こんなんワキとか直で臭いなら  
気絶しちまうだろーぜw」



はあ…

はあ…

ム…

「いやっいやんっ♥  
私、そんなに臭いの？」

「ああ、今の  
ド●セナは  
めっちゃ  
臭いババア  
だよw」

「ああもうやだっ♥  
…嫌いになっちゃっう？」

「何言ってるんだよ  
俺がそんな事で嫌いに  
なる訳ねーだろ！」

「むしろド●セナの臭い匂い嗅いで  
興奮しまくりだっつーの！」

お花…

グッしょり…

お花…

「やだ…♥  
マッチョ君の変態♥」

「るせーw  
いいからもっと  
嗅がせろよw」



「うおー！  
やっぱり」は  
一段と匂うな！」

「ちよつとマツチヨ君  
こんな格好で…  
もう…いやん」

「くせーくせー！  
ト●セナま●ニ  
マジくせーっ！」

「もうやだやだっ  
やっぱり恥ずかしいわ…」



「ああくせえ！ホントくせえ！  
ち●ぽーくくるせつ……！」

「汗と尿とまん汁がブレンド  
された激ヤバなババア臭  
じゃねえか……！  
流石の俺もこの匂いを  
嗅いで正気を保っていただけ  
そうもないぜつ……！」

「もう、マッチョ君の変態っ  
ああん♥バカバカッ♥」

「ああ変態だよ！  
ち●ぽフル勃起だよ！」



「くっせーババア汁も  
やべえな！  
臭旨すぎ……」

「臭いの言いの!?!  
マツチヨ君のち●ぽに  
きちやう臭旨まん汁  
なの……!?!」

「そっだよ！  
こりや何発ハメリやあ  
収まるかわかんねえな！」

「ああん♥早くう♥  
臭まんにハメちん  
しまくってえん♥」

「ああやってやるよ！  
覚悟しとけよ  
スケベババア！」



「もうちつとハメてやりたい  
とこだけどゴムを使い  
切っちゃったから今日は  
この辺にしとくか…」

「おら、ド●セナ写メ撮ってやる  
からスケベポーズ決めろや♪」

「ん…ふ♡」

ムン

本日の成果♡

正正

便女四天王  
♡極上熟女ま♡

カリチン  
♡大歓迎♡

年下ち×ほ  
大好きおばさん♡



「おっ、いいねえw  
このエロババア…  
またち●ぽ勃って  
きたじゃねえかw」

「あー我慢出来ねえ  
なあ、アナルなら  
ゴム無しでも  
いいだろ？  
もう一発ハメねえと  
収まんねえよ！」

チャラ男君から始まり  
今ではマッチョ君の  
女となった私…  
すっかりマッチョ君の  
…いえ男が喜ぶ術を  
熟知している…

ヤリチン  
大歓迎  
年下ちxぽ  
大好きおばさん

本日の成果♡  
正正  
便女四天王  
極上熟女まxこ

それをやる事に抵抗はない  
自分を好いてくれる人の為に  
痴態を晒す事は私にとっても  
喜ばしい事だからだ…



マッチョ君とはまだ一度も  
生ではしていない  
私がいづも断わっているからだ  
その理由はチャラ男君の事が  
まだ好きだから……

最近チャラ男君からの  
連絡も来ない……  
きつと、私がチャラ男を  
裏切ってこんな事ばかり  
しているからバチが  
当たったに違いない……  
それでも私は……

本日の成果♡

正正

便女四天王  
♡極上熟女ま♡

カリチン  
♡大歓迎♡

年下ち×ほ  
♡大好きおばさん♡



ぼく君から久々に連絡が来ました  
虫捕り大会と一緒に参加して欲しい  
という事だったので引き受けて  
あげました  
もしかしたらチャラ男君の事何か  
知ってるんじゃないかと思って聞いて  
みたんだけど・・・何も知らないみたい



ムツク



ムツク

：気を取り直して  
ぼく君と虫捕り大会よ♪  
今日の服装はぼく君からの  
リクエストです♪  
動きやすい格好がいいよね  
って事でこの服装になりました♪

ムッチン



「どうですか、ド●セナさん  
その服装の着心地は？」

「とっても良い感じよ♪  
動きやすいし、下はスパッツだから  
思いっきり動けるわ♪」

「そうですね♪」

ムツク

ムツク



森の奥へ進むとぼく君は  
モ●フオンの超音波で混乱  
してしまいました

「ほらド●セナおばさん  
もつと奥までしゃぶってよ！  
ぼくのしゃぶって気持ち良  
くなっておま●こからエッチな  
甘い蜜いっぱい出すんだよ！」

グジ

んんん

んんん

んんん

まほまほ

「その蜜で虫ポ●モンが沢山  
集まってくるでしょ！」

「この子ったら完全に混乱状態ね……  
こうなったら一度ぼく君をイかせて  
から正気に戻ってもらおうしか……」

(!...そんな強引にスパッツを  
破いて...おま●こにモ●フォンの  
生殖器が...先っちょが入ってる♡)

「おばさん気持ち良いでしょ!」  
ぼくも気持ち良くて「石ニ鳥だね!」



(ぼく君もスパートかけてきたっ...♡  
お口とおま●こ両方犯されちゃってる♡  
ああダメ...こんな状況なのに...  
感じちゃう♡おま●こ気持ち良いわ♡  
気持ち良くておしっこ漏れちゃうわっ♡)

(嫌々っ♡  
ポ●モン相手に感じちやうなんて  
四天王失格よっ♡  
モ●フォンが射精する前に  
ぼく君を本気フェラでイカせるわ♡)



この後、ほどなくしてぼく君をイカせ  
しがみつくとモ●フォンを振り払う事に  
成功したド●セナであった…

「うひょー♪」

この衣装マジイカしてるじゃん♪  
これなんだろう？チャラ男との  
思い出の衣装ってのが♪」

どキーン  
どキーン

「え、ええ…  
そっなのよね…」



うぶっざい

うひょー♪

(チャラ男君との初デートの時  
この衣装を着た…  
この衣装で沢山エッチもした  
忘れられない、思い出の衣装  
なのよ…)



「いやー、嬉しいねえ♪」

俺の為にこれを着てくれる  
って事はもうチャラ男の事は  
忘れて俺の女になってくれる  
って、そういう事なんだよな？」

「それは…  
その…」

どきん  
どきん

「ト●セナは優しいからな  
罪悪感があるんだらうけどさ  
気にする事ないって♪  
もう随分、チャラ男から  
連絡きてないんだろ？」

「そうなんだけど…  
面と向かって別れを  
告げられた訳ではないし…」

「よし、それじゃあ今から  
俺とエッチして決めてくれ  
俺とチャラ男、どっちの女に  
なるかをな…♪」

うずつぎ

コン  
コン

「…んもう、マッチョ君ったら  
強引なんだから…  
でも…そんな所が  
男らしくて素敵なのよね…♡」

「へへへ、それはト●セナが  
良い女だからだよ♪」

(実は俺がチャラ男に連絡すんなって  
言ってるからなんだけどな♪  
その代わりあいつには俺のお古を  
使わせてやってるから、問題ないだろ♪)



「おっ、身体が熱いな汗も掻いてるし…  
「りや既におま●●ぐちよ濡れで  
うずうずしてるのよ。」

「だって、いい歳してこんな…  
お姫様抱っされて…  
それにマッチョ君のデカちんで  
おま●●ノックされたら  
そうなっちゃうわよ…。」

「へっへっへ、ホント可愛いよな  
ド●セナは…♪  
今夜、ぜってー俺の女に  
してやっからな…♪。」

うずうず

どきん

「んだよ、結局まだゴム無しで  
やらせてくんねーのかよ?」

「それはだつて...  
いくら何でも心の準備が...♥」



んはっ

あっ

じゅんじゅん

じゅんじゅん

じゅん

あーっ  
あーっ  
あーっ

あーっ  
あーっ  
あーっ

「へへ、まあいいわ  
その迷いもこれから  
吹き飛ばしてやっからわ」

「それにしてもホント最高だぜ  
ド●セナ犯してると  
俺の理性が吹っ飛びそうだわ♪」

「それは「うちの台詞よっ♡  
マッチョ君のち●ぽで  
私の理性吹っ飛びっぱなし  
なのよっ♡」

「それじゃあ、もう俺の女に  
なっちゃえばいいじゃん♪」

「そ、それは…ダメよお…  
私の彼氏はチャラ男君  
なんだからあ…♡」

「ったく、今まで散々俺のち●ぽで  
ヨガリまくって、今だって「っして  
おま●「っしてるくせに」  
どの口が言うかねえ？」



んはっ  
あっ

じゅわんわん

じゅわんわん

あっ

あっ

あっ  
あっ  
あっ  
あっ  
あっ

あっ  
あっ  
あっ  
あっ  
あっ

じゅわん

「そんなに言うのなら俺とはもう  
会わなくていいんだよな？  
連絡取れないチャラ男を  
想い続けて一人でオナつてれば  
いいんじゃないの？」

「…そ、そんなの無理よお♥  
マッチョ君のデカちんじやないと  
おばさん満足出来ないわっ♥」

「そっつだろ？」のエロババアが！  
認めろよ！誰のち●ぽが  
一番なんだ？ああ？」



「マッチョ君のち●ぽよお♥  
一番はマッチョち●ぽおお♥  
好き…」のち●ぽが一番  
大好きなおおおっ♥」

「つづはー！うめえ♪  
やっぱト●セナのまん汁は  
めちやくちやうめーな♪」

「マッチョ君のち●ぽミルクも  
美味しいわよ♥」

びちだ  
おろ

おろ  
びち

じゅっぽ

ん  
じゅっぽ

ぷっ

「とつても濃厚で活きの良い  
若者ち●ぽミルク…♥  
これ飲んだらおばさん  
どんどん元気になっちゃおう♥」

「」のヒロババアワ  
それじゃあたっぷり  
飲ませてやっからな〜♪」



「マッチョ君の  
ち●ぽミルク…♡  
飲みたい…  
もっと飲みたい…♡」

「くくく…だろ？  
それならよー…  
上の口からじゃなくて  
下の口からでよーよっ」

「えっ？  
そ、それって…」

「そーだよ、今啜えてるそれを  
ゴムを付けずにそのまま…  
ずっぽしハメるんだよ…♪」

「それはダメ…  
ダメなのよ…」

「はあ？何ですよ？  
お互いこんなに仲良く  
シックスナインまで  
しててダメなの？」

びぢん  
おろし

おろし  
びぢん

「これで終わりじゃ  
ないっしょ？  
まだまだ二人で  
ラブラブセックス  
やるっしょ？」

「…やるっ♡  
マッチョ君とラブラブセックス  
しまくるっ…♡  
でも、ゴムはするのぉ…♡」

「はあ？ラブラブセックス  
するんだろ？  
なら、ゴムはいらない  
だろーが！」

「そ、それは……」

「したんだろ？」

俺と……俺のデカちんと  
ラブラブセックス！  
ずっと生ハメしたくて  
堪らないんだろっ!？」

「……  
したい……」

「あん？  
聞「えねーよ」

「……マッチョ君と  
したいです……」  
「もっとハッキリ  
言わねーとダメだろ？」

びぢん  
おろっ

おろっ  
びぢん

「……マッチョ君のデカちんと  
ラブラブ生ハメセックス  
したいですっ♥  
おばさんのドスケベエロ  
ま●こにち●ぽミルク  
注いで欲しいですっ♥♥♥」

「くくく、言えたじゃねえかw  
……それじゃあ、お望み通り  
ゴム無し生ハメセックス  
ぶちかましてやるぜ……!」



0.01

ギシッ

「やっぱり生ハメはいいな♪  
何より…愛する女と  
つてのが最高だぜ♪」

「マッチョ君♥  
そろそろ中に…  
中に頂戴ッ♥」

ギシッ

ギシッ

「ああ、いいぜ♪  
濃厚な一発を  
プレゼントしてやるぜ！」

ギシッ

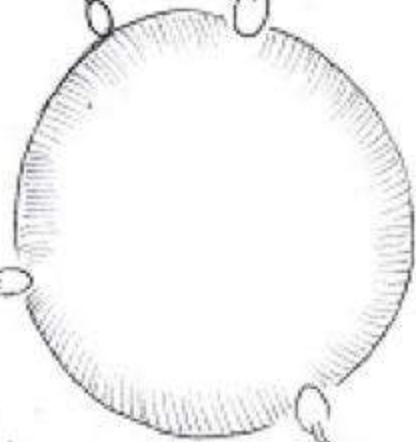
ギシッ

ギシッ

ギシッ

ゴウゴウゴウ  
ゴウゴウゴウ  
ゴウゴウゴウ  
ゴウゴウゴウ

パン  
パン  
パン  
パン



「俺の愛の結晶：  
受け取れやっ！」

「ああ♥来てるっ…♥  
マッチョ君の子種♥ザーメン♥  
ち●ぽミルクが来てる…♥」

「とっても濃厚なのが  
私の中に流れ込んでるっ…♥」



「記念すべき一発目の中出し…  
だが、まだまだこれからだ♪」

「次はド●セナに  
頑張ってもらおうかなあ♪」

「え……？ええ……  
私に出来る事なら……  
マッチョ君の為なら喜んで……♥」



「おっしや♪  
それじゃ早速  
次いくぞ♪」

あっ

はっ

はっ

ふんふん

はっ

ふんふん

はっ

はっ

「ちよつみのババアW  
やりやあ出来るじゃないか♪  
ド●セナの騎乗位さまになってるぜ♪  
それにハイレグ衣装も文句なしだ♪」

「おばさんだって

このぐらい出来るわよ♥

それに…マツチヨ君の為なら

どんな変態プレイだって

チャレンジしちゃうんだから♥



あっ

はっ

はっ

ふんふん

ふんふん

はっ

はっ

はっ

「いい歳してそのチャレンジ精神は流石四天王と言ったところかね♪ それじゃあ『褒美にもう一発中出しかましてやるか♪』」

「来て来てっ♥  
おま●この奥にとっぴゅんかましてえ…♥」

「よし、そのまま上下に動き続けるよ…  
ち●ぽに刺激を与え続けるんだ…」



あっ

はい

はい

ふんふん

ふんふん

はて

はて

「イクぞッ！二発目ッ！」

「来たあああん♥  
マツチヨ君の濃厚ち●ぽ汁うっッ♥」

「子宮の奥目掛けて…  
こんなおばさんを妊娠させようと  
若くて活きの良い子種汁が注がれてるうッ♥」



んっ

はっ

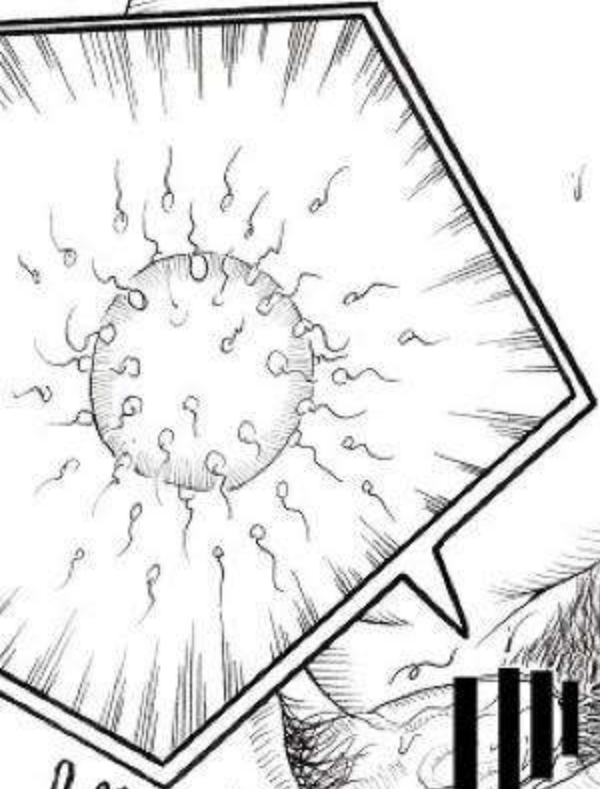
んっ

あはっ

「マッチョ君…もっと頂戴っ  
乾き切ったおばさんま●  
マッチョ君のち●ほ汁で  
潤してええんっ♥」

「この欲しがりババアめっ  
いいぜ、何度だって  
かましてやっからよっ  
ちゃんと受け取れよっ」

「ああん♥来るうっ  
子宮にドクドク  
来てるうっっっっっ♥」



あはっ

あはっ

あはっ



んっ

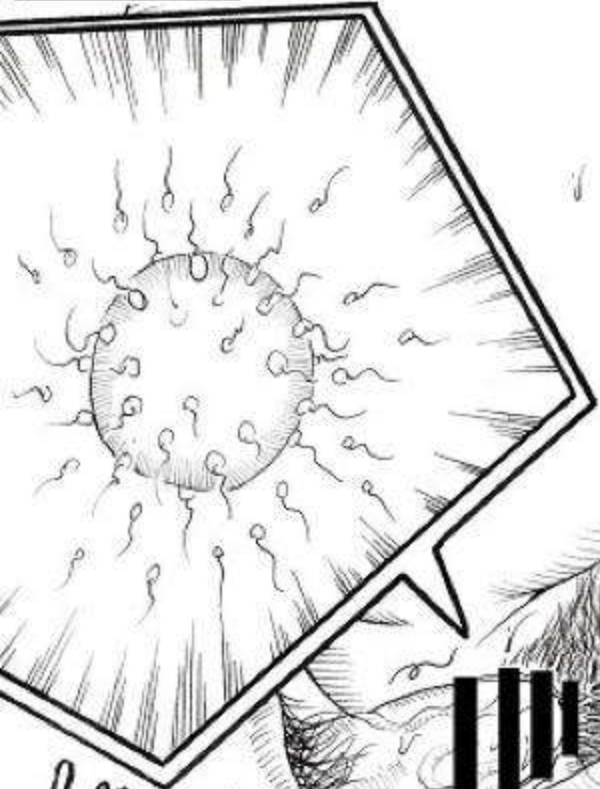
はっ

んっ

あはっ

「ああ…出る…  
まだすげー出るわ♪  
ド●セナの事マジに  
孕ませようと俺の  
ち●ぽもいつも以上に  
張り切ってる  
みてーだわ…♪」

「あん♥そんな事言われたら  
おばさん嬉しくなるの  
知ってるくせいっ♥…♥」



あはっ

あはっ

あはっ





んっ

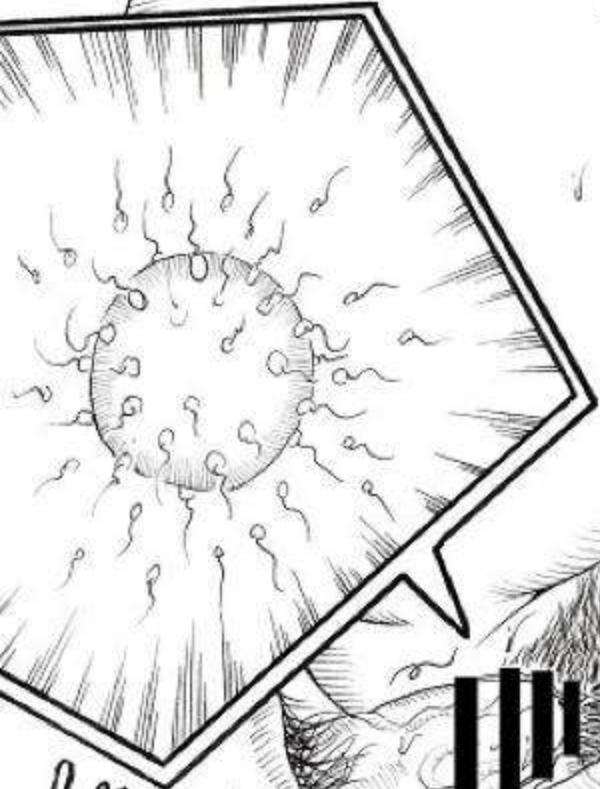
はっ

んっ

あはっ

「おっ、ま●こ締まったな♪  
嬉しくて気合入れ直したか♪  
それじゃあ、そろそろ  
ラストスパートいくぞ……♪」

「……マツチヨ君……  
来て……  
私も最後までま●こ  
締めて頑張るから……」



あはっ

あはっ

あはっ



「オラオラッ！いいだろ！  
これ、めっちゃ気持ち良いだろッ！」

「すっごくおい♡「わいっしん」  
めっちゃ気持ち良い♡♡」

「俺が一番だろッ！」

「ド●セナが満足出来るのは  
俺のち●ぽだろーがッ！」

「そっよお♡マツチヨ君の  
ち●ぽが一番♡  
マツチヨち●ぽ最高お♡」

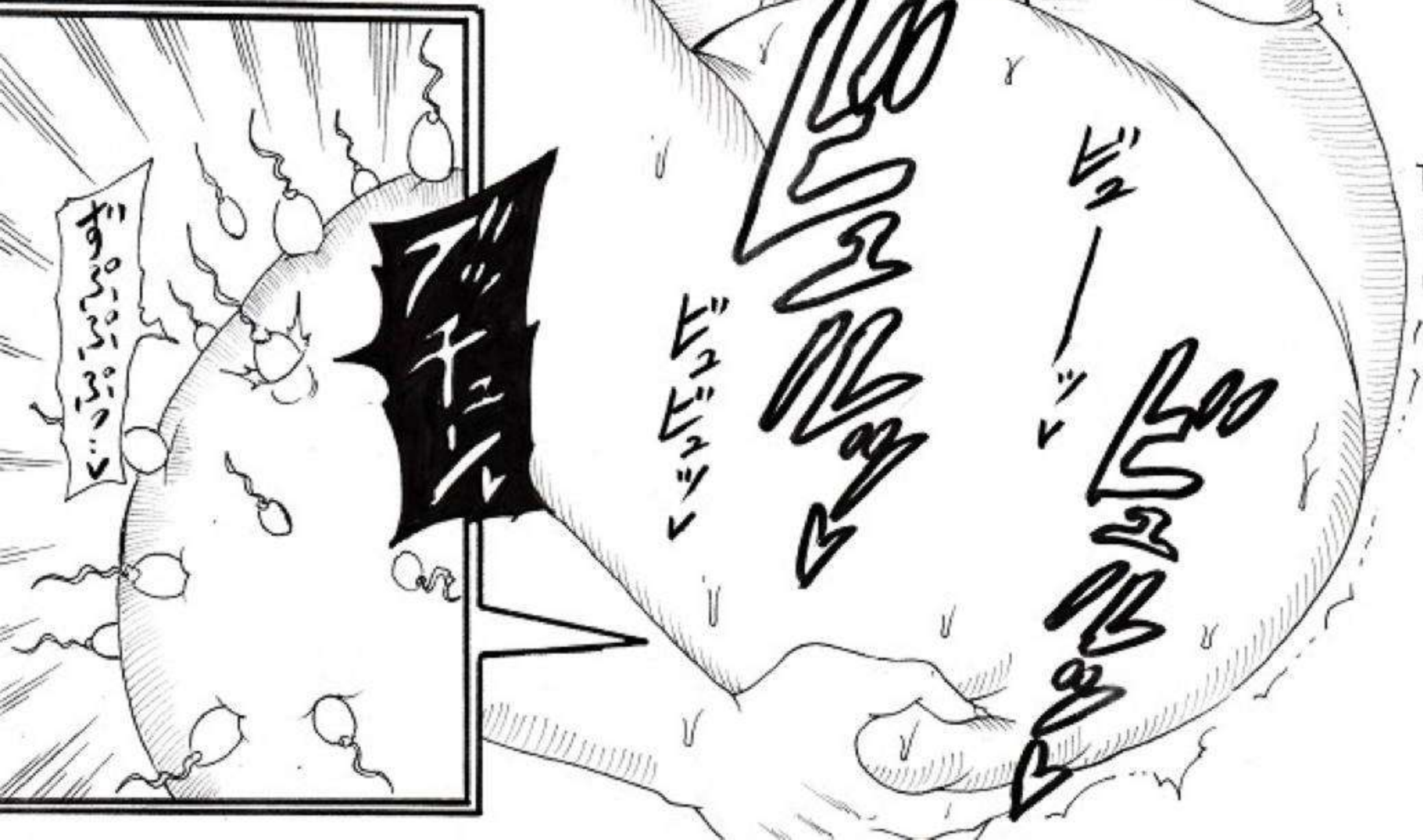
「あつあつおっぱいッ」

「アッ」

「ムムムム」

「ムムムム」

「ムムムム」



「いい歳して、みっともねえ声出して…  
そんなに俺のち●ぽが良いのかよ！」

「いいの●いいのおっ●ナンブー●おめな  
ベストオブち●ぽなのよおおっ●」

「そうだろーがよお…!!  
それじゃあまた中に  
出してやっからな…!!」

「ああん●中出し  
早く早くうっ…●」



「感謝しろよ...ババア！  
 年下ち●ぽ汁...また  
 出してやるんだからな！」

「は、はい、はい●マツチヨ君のち●ぽ汁  
 マジ感謝●こんなおばちゃん  
 中田ノキメトオオノ...  
 ありがとう！いえこそますじ●」

「オラ！イケツ...！！  
 感謝しながらイケやがれ！」

「んほおおおっ●イケツ●  
 イケイケツ●イッゲウウ●」

**ア  
 キ  
 ム**

ピュピュッ

ビョー  
 アイ  
 ビョー  
 アイ  
 ビョー



「ふいー…めっちゃ出したわー  
なあ、何発中出ししたっけ？」

「十…四、五発？ええと…  
わ…わかんない…♡」

「ド●セナは  
何回イッたんだよ？」

「ずっと…イキっぱなしだから  
それもわかんない…♡」

「んだよそれw  
ちゃんと覚えとけよ  
このヒロババアw」



「エロババアはいちいちそんな数  
数えないわよお…♡」

「それもそうだなw  
いやーそれにしても  
このコスプレよっぽど  
お気に入りであったんだな  
こんなにバリエーションが  
あるなんてよw」

「そうね…♡  
チャラ男…も、元カレが  
全部用意してくれたのよ…♡」

「元カレに感謝だなw  
マジエロかったぜw」

「これ着るとドスケベスイッチ  
入っちゃうのよね…♡  
そういう身体にされちゃったの♡」

「女の過去は気にしない俺だけよ  
流石にヤキモチ焼くわw」

「うふふ…♡  
今はもうマツチヨ君だけの  
ドスケベカノジヨなのよ♡」



「そうだなw  
まあドスケベな所含めて  
ド●セナが好きだからなw」

「あん♥嬉しい…♥  
マッチョ君に好きって  
言われるだけで  
私、イキそう…♥」

「何度だって言ってるよ  
ド●セナ、好きだぜ  
ド●セナの事愛してる」

「わ、私も♥好き好き♥  
愛してるわ、マッチョ君ん♥」

「うお、すげーw  
マジでイキやがったw」

その後、ド●セナは妊娠  
めでたく2人は結ばれた



ド●セナはめでたく妊娠  
そして、出産予定日まで  
2カ月を切った

「やーねえ、すっかりお腹が  
大きくなってこの歳で  
妊娠は嬉しいけど…  
おばさんのくせにとか  
周りから思われてそうで  
恥ずかしいのよね…♡」



ムキ

おははは

ムキ



「何言ってるんだよ  
今どき高齢出産なんて  
珍しくもねえだろ」

「そうだけど…  
それとこれとは別よ」

「気にすんなって  
文句を言う奴は俺が  
ぶっ飛ばしてやるからよ…」

「まあ…うふふ  
ありがとマッチョ君♥」



ムキ

おっおっおっ

ムキ

「とろろでよ、ド●セナ

その格好はどうしたんだよ？」

「このとろろマツチヨ君と

エッチ出来なかつたから

今日はこの服を着て

マツチヨ君のち●ぽヌキヌキ

してあげようと思つて…」

「マジかよ

ド●セナ！」

「本番は危険だから勿論出来ないけど…

ち●ぽヌキ方法ならいくらでも

ありますからね…」

マツチヨ君の為に  
お婆さんのスケベテクご披露しちゃうわ



ムキ

「つたく、お前つてやつは…  
マジ最高だぜ…」

「ほら、マツチヨ君  
ち●ぽ出して」

「うーん」

お婆さん

ムキ

END